

D-5

# 百体観音

## 湯道を訪れた人々の暮らしを現在に伝える遺産

### ■■■人々の暮らし■■■

旧長野県東部町（現長野県東御市）から峠を越えて旧鹿沢温泉までの山道約12km（100丁）は「湯道」と呼ばれ、一番から百番までの「丁石」と呼ばれる百体の観音像が、1丁（約110m）ごとに道脇に安置されています。この百体観音は、旅の安全を願う道標として「地蔵峠道しるべ観音」とも呼ばれ、この観音像を頼りに大勢の湯治客が霊湯で名高い鹿沢温泉へ通いました。



百体観音

設置されている解説板

横巻村指定文化財  
 丁石百体観音像（百番道しるべ観音）  
 （所在地）群馬県東御市横巻村大字田代六丸番地  
 （指定）昭和四十八年十月十八日  
 群馬県東御市横巻村から地蔵峠を越えて、横巻村田代の湯  
 沢温泉までの湯道に、江戸時代から明治にかけて、一丁  
 （約〇・九メートル）おきに百体の石造観音像が建てられ、  
 「丁石百体観音」と呼ばれています。  
 紅葉道の整備に建てられた「千手観音像」は、百番目  
 の観音で、参詣人は地元の産物「石臼餅」と「依田角平」あ  
 り「伊豆高野」の石工である中山屋によって明治二年に造  
 られたもので、東御市新築の「一番観音」と並んで大きく祀れ  
 たものとされています。  
 百体観音の建立は、観音菩薩の功徳は大きく、それを一  
 心に念ずれば多くの災いから守られ、理々の煩惱から離れる  
 ことができるといふ考えに発した「観音蓮花」によっても  
 と考えられます。  
 百体観音をはじめとする百体観音像には、観音信仰を基  
 にした湯治への道中の無事を願う心、湯の効用を期待  
 する心がめめられています。  
 平成二十三年十月設置  
 横巻村教育委員会

